

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2026.3.30-4.5

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（1〜3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

26:57 人々はイエスを捕らえると、大祭司カヤパのところに連れて行った。そこには律法学者たち、長老たちが集まっていた。

26:58 ペテロは、遠くからイエスの後について、大祭司の家の中庭まで行った。そして中に入り、成り行きを見ようと下役たちと一緒に座った。

26:59 さて、祭司長たちと最高法院全体は、イエスを死刑にするためにイエスに不利な偽証を得ようとした。

26:60 多くの偽証人が出て来たが、証拠は得られなかった。しかし、最後に二人の者が進み出て、

26:61 こう言った。「この人は、『わたしは神の神殿を壊して、それを三日で建て直すことができる』と言いました。」

26:62 そこで大祭司が立ち上がり、イエスに言った。「何も答えないのか。この人たちがおまえに不利な証言をしているのは、どういうことか。」

26:63 しかし、イエスは黙っておられた。そこで大祭司はイエスに言った。「私は生ける神によっておまえに命じる。おまえは神の子キリストなのか、答えよ。」

26:64 イエスは彼に言われた。「あなたが言ったとおりです。しかし、わたしはあなたがたに言います。あなたがたは今から後に、人の子が力ある方の右の座に着き、そして天の雲とともに来るのを見ることになりませぬ。」

26:65 すると、大祭司は自分の衣を引き裂いて言った。「この男は神を冒した。なぜこれ以上、証人が必要か。なんと、あなたがた

は今、神を冒?することを聞いたのだ。

26:66 どう思うか。」すると彼らは「彼は死に値する」と答えた。

26:67 それから彼らはイエスの顔に唾をかけ、拳で殴った。また、ある者たちはイエスを平手で打って、

26:68 「当ててみろ、キリスト。おまえを打ったのはだれだ」と言った。

大祭司たちはイエス様を罪に定めることが、初めからの目的であったので、イエス様のことを勝手に解釈しています。「あなたが言ったとおり」ということで冒涇と決め付けていますが、これは彼らがイエス様を「神のキリスト」と言っていることになりませぬ。また「人の子」を勝手にイエス様であると解釈しています。

これにより結局彼らは、イエス様が神であるという事実を有罪としたのです。すなわち彼らは神を神として認めなかったという罪を犯したわけです。

すべての義と真理、そして愛の根源であられる、創造主である神に逆らっては、どんな正義も成り立ちませぬ。その神様を有罪として、殺すなどという前代未聞の暴挙は、神が神であることを認めない態度と一体であることが分ります。

私たちは神様を神と認め、信頼しましょう。神様を主として、どんなことでも従いましょう。このときにイエス様のそばにいたとしたら、それができるでしょうか。そして今はどうでしょうか。

①神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか? (気持や願いなど)

③生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか?



31日 火曜

マタイ

26:69 ペテロは外の中庭に座っていた。すると召使いの女が一人近づいて来て言った。「あなたもガリラヤ人イエスと一緒にいましたね。」

26:70 ペテロは皆の前で否定し、「何を言っているのか、私には分からない」と言った。

26:71 そして入り口まで出て行くと、別の召使いの女が彼を見て、そこにいる人たちに言った。「この人はナザレ人イエスと一緒にいました。」

26:72 ペテロは誓って、「そんな人は知らない」と再び否定した。

26:73 しばらくすると、立っていた人たちがペテロに近寄って来て言った。「確かに、あなたもあの人たちの仲間だ。ことばのなまりで分かる。」

26:74 するとペテロは、嘘ならのろわれてもよいと誓い始め、「そんな人は知らない」と言った。すると、すぐに鶏が鳴いた。

26:75 ペテロは、「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と言われたイエスのことばを思い出した。そして、外に出て行って激しく泣いた。

ペテロが自分はイエス様を裏切ることはないと宣言したときの気持は本当であったと思われませんが、自分の命が危ないとなると、結局裏切ってしまいました。イエス様はそのことを知っていましたから、彼が立ち直れるように、予め「鶏が鳴く前に...知らないと言う」と言われたのです。

知っていながらそれを咎めることもせずにいることで、すでに赦しておられるということです。イエス様はこのように、私たちにも接して下さいます。罪があり弱いものであることを言っていながら、それを始めから赦し、そして回復へと向かわせてくだ



さるのです。

私たちはこのペテロのように、ただ主の愛を心で受け止めましょう。自分のふがいなさを知ること大切です。その上で、それで終わらずに、主の全てをご存知の愛に安心して委ねましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 1日 水曜

マタイ



27:1 さて夜が明けると、祭司長たちと民の長老たちは全員で、イエスを死刑にするために協議した。

27:2 そしてイエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き渡した。

27:3 そのころ、イエスを売ったユダはイエスが死刑に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を祭司長たちと長老たちに返して、言った。

27:4 「私は無実の人の血を売って罪を犯しました。」しかし、彼らは言った。「われわれの知ったことか。自分で始末することだ。」

27:5 そこで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして出て行って首をつった。

27:6 祭司長たちは銀貨を取って、言った。「これは血の代価だから、神殿の金庫に入れることは許されない。」

27:7 そこで彼らは相談し、その金で陶器師の畑を買って、異国人のための墓地にした。

27:8 このため、その畑は今日まで血の畑と呼ばれている。

27:9 そのとき、預言者エレミヤを通して語られたことが成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの子らに値積もりされた人の価である。」

27:10 主が私に命じられたように、彼らはその金を払って陶器師の畑を買い取った。」

27:11 さて、イエスは総督の前に立たれた。総督はイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王なのか。」イエスは言われた。「あなたがそう言っています。」

27:12 しかし、祭司長たちや長老たちが訴えている間は、何もお答えにならなかった。

27:13 そのとき、ピラトはイエスに言った。「あんなにも、あなたに不利な証言をしているのが聞こえないのか。」

27:14 それでもイエスは、どのような訴えに対しても一言もお答えにならなかった。それには総督も非常に驚いた。

27:15 とところで、総督は祭りのたびに、群衆のため彼らが望む囚人を一人釈放することになっていた。

27:16 そのころ、バラバ・イエスという、名の知れた囚人が捕らえられていた。

27:17 それで、人々が集まったとき、ピラトは言った。「おまえたちはだれを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか、それともキリストと呼ばれているイエスか。」

27:18 ピラトは、彼らがねたみからイエスを引き渡したことを知っていたのである。

27:19 ピラトが裁判の席に着いているときに、彼の妻が彼のもとに人を遣わして言った。「あの正しい人と関わらないでください。あの人のことで、私は今日、夢でたいへん苦しい目にあいましたから。」

27:20 しかし祭司長たちと長老たちは、バラバの釈放を要求してイエスは殺すよう、群衆を説得した。

27:21 総督は彼らに言った。「おまえたちは二人のうちどちらを釈放してほしいのか。」彼らは言った。「バラバだ。」

27:22 ピラトは彼らに言った。「では、キリストと呼ばれているイエスを私はどのようにしようか。」彼らはみな言った。「十字架につける。」

27:23 ピラトは言った。「あの人がどんな悪いことをしたのか。」しかし、彼らはますます激しく叫び続けた。「十字架につけ

ろ。」
27:24 ピラトは、語ることが何の役にも立たず、かえって暴動になりそうなのを見て、水を取り、群衆の目の前で手を洗って言った。「この人の血について私には責任がない。おまえたちで始末するがよい。」

27:25 すると、民はみな答えた。「その人の血は私たちや私たちの子どもらの上に。」

27:26 そこでピラトは彼らのためにバラバを釈放し、イエスはむちで打ってから、十字架につけるために引き渡した。

バラバの一件は、マタイが一番詳しく書いています。マタイの福音書はユダヤ人を念頭に置いているので、そのユダヤ人がイエスを十字架につけたことを明確にする意図があったのかも知れません。それは告発のためではなく、ユダヤ人をも回心させるためです。私たちもこのことを読むときには、自分の罪がイエス様を十字架につけたのだという理解が大切です。その思いによって、回心の信仰をさらに深くさせていただきましょう。

さらには、自分自身をバラバになぞらえることも必要です。イエス様が十字架にかかってくださったので、私はバラバのように釈放されたということです。

身代わりによって滅びから解放された喜びを、そして安心と自由を味わいましょう。そしてすぐさま、身代わりとなってくださった主イエスのもとに走り、感謝の思いでひれ伏しましょう。そのような歩み方をしましょう。

- ①神のみこころは？②どんな思いになりましたか？③生き方にどう適用しますか？
- ④この世にあって何を実践しますか？

2日 木曜

マタイ

27:27 それから、総督の兵士たちはイエスを総督官邸の中に連れて行き、イエスの周りに全部隊を集めた。

27:28 そしてイエスが着ていた物を脱がせて、緋色のマントを着せた。

27:29 それから彼らは茨で冠を編んでイエスの頭に置き、右手に葦の棒を持たせた。そしてイエスの前にひざまずき、「ユダヤ人の王様、万歳」と言って、からかった。

27:30 またイエスに唾をかけ、葦の棒を取り上げて頭をたたいた。

27:31 こうしてイエスをからかってから、マントを脱がせて元の衣を着せ、十字架につけるために連れ出した。

27:32 兵士たちが出て行くと、シモンという名のクレネ人に出会った。彼らはこの人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。

27:33 ゴルゴタと呼ばれている場所、すなわち「どくろの場所」に来ると、

27:34 彼らはイエスに、苦みを混ぜたけどどう酒を飲ませようとした。イエスはそれをなめただけで、飲もうとはされなかった。

27:35 彼らはイエスを十字架につけてから、くじを引いてその衣を分けた。

27:36 それから腰を下ろし、そこでイエスを見張っていた。

27:37 彼らは、「これはユダヤ人の王イエスである」と書かれた罪状書きをイエスの頭の上に掲げた。

27:38 そのとき、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右に、一人は左に、十字架につけられていた。



27:39 通りすがりの人たちは、頭を振りながらイエスをののしった。

27:40 「神殿を壊して三日で建てる人よ、もしおまえが神の子なら自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」

27:41 同じように祭司長たちも、律法学者たち、長老たちと一緒にイエスを嘲って言った。

27:42 「他人は救ったが、自分は救えない。彼はイスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおう。そうすれば信じよう。」

27:43 彼は神に抛り頼んでいる。神のお気に入りなら、今、救い出してもらえ。『わたしは神の子だ』と言っているのだから。」

27:44 イエスと一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。

「衣を分けた」というのは、預言されていたことであって、イエス様の死が旧約の預言成就であることが分かります。イエス様は二人の強盗と同等に扱われました。これもまた預言の成就です。しかし全ての人がイエス様の敵となり、嘲り、そして蔑んだことが分かります。

「わが神、わが神、どうして...」というのは詩篇のメシヤ預言の1節です。イエス様はその預言がまさに今、ご自分に成就していることを思いつつ、苦しみ耐えていたことでしょう。

そして今、旧約の約束が根本的に成就しました。神と人とを隔てる「神殿の幕」が裂け、神と人とが和解する道が開けたのです。

このような救いを受けた私たちです。この奇跡を忘れないように、日々、愛の主イエスとともに歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 金曜

マタイ



27:45 さて、十二時から午後三時まで闇が全地をおおった。

27:46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

27:47 そこに立っていた人たちの何人かが、これを聞いて言った。「この人はエリヤを呼んでいる。」

27:48 そのうちの一人がすぐに駆け寄り、海綿を取ってそれに酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けてイエスに飲ませようとした。

27:49 ほかの者たちは「待て。エリヤが救いに来るか見てみよう」と言った。

27:50 しかし、イエスは再び大声で叫んで霊を渡された。

27:51 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。地が揺れ動き、岩が裂け、

27:52 墓が開いて、眠りにっていた多くの聖なる人々のからだが生き返った。

27:53 彼らはイエスの復活の後で、墓から出て来て聖なる都に入り、多くの人に現れた。

27:54 百人隊長や一緒にイエスを見張っていた者たちは、地震やいろいろな出来事を見て、非常に恐れて言った。「この方は本当に神の子であった。」

27:56 その中にはマグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子たちの母がいた。

ユダヤ人にとって着物とはお母さんが織ってくれた一生のものですが、それを面白半分にくじで分けられるとは、何と辛いことだったでしょう。また強盗と一緒にされたということは大きな屈辱でもあり

ます。そのほかありとあらゆる辱めを受けられましたが、イエス様はこれをすべて耐えてくださいました。それらの苦しみが三時間も続いたのです。

現代人が抱える多くの苦しきも、尊厳と屈辱の問題であることを考えると、イエス様が受けた苦しきは本当に私たちを癒すためであったことが分ります。

「どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」ということばを、神への恨みであるとする異端もありますが、それは馬鹿らしい間違えです。これは詩篇22編であることは明らかで、これはキリストの型であるダビデが苦難のときに神を呼んだ歌であり、イエス様はご自分がそのひな型を成就するのがご自分であるということを受け止めておられたのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4日 土曜

マタイ

27:57 夕方になり、アリマタヤ出身で金持ちの、ヨセフという名の人が来た。彼自身もイエスの弟子になっていた。

27:58 この人がピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。そこでピラトは渡すように命じた。

27:59 ヨセフはからだを受け取ると、きれいな亜麻布に包み、

27:60 岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。そして墓の入り口に大きな石を転がしておいて、立ち去った。

27:61 マグダラのマリアともう一人のマリアはそこにいて、墓の方を向いて座っていた。

27:62 明るる日、すなわち、備え日の翌日、祭司長たちとパリサイ人たちはピラトのところに集まって、

27:63 こう言った。「閣下。人を惑わすあの男がまだ生きていたとき、『わたしは三日後によみがえる』と言っていたのを、私たちは思い出しました。

27:64 ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうでないと弟子たちが来て、彼を盗み出し、『死人の中からよみがえった』と民に言うかもしれません。そうなると、この惑わしのほうが、前の惑わしよりもひどいものになります。」

27:65 ピラトは彼らに言った。「番兵を出してやろう。行って、できるだけしっかりと番をするがよい。」

27:66 そこで彼らは行って番兵たちとともに石に封印をし、墓の番をした。

ヨセフはユダヤの議会であるサンヘドリンの一員でしたから有力者でした。彼はその立場上、できる



限りのことをしたのだと思われます。死に際しては遺体を丁寧に扱うことが大切です。聖徒の死に際しても、たましいは遺体にはありませんが、その人格を思い起こし、記憶がそこにありますから、葬儀のときもそのような心が重要です。

祭司長やパリサイ人自分の保身のために、遺体の番兵を願いましたが、これが後に復活の証拠につながることとなりました。すなわち、遺体が無くなっていても関わらず、番兵たちが裁かれていないのです。そこには人間以外の不可抗力的な何かがあったということです。

神様の力は地上のどんな権力をもってしても、止めることはできません。むしろ神様は敵の策略さえも用いられるのです。主の地から信頼しましょう。そして死に打ち勝った主をあがめましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 日曜

マタイ



28:1 さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。

28:2 すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである。

28:3 その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。

28:4 その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった。

28:5 御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。

28:6 ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。

28:7 そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。」

28:8 彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。

28:9 すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。

28:10 イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。」

メシヤの復活は預言されていましたが、にわかには信じられないようなことでした。なのでトマスはすぐには信じられませんでしたし、イエスの遺体は盗まれたという噂も、まことしやかに話されたのです。しかし復活は歴史的な事実であり、神の真実です。

多くの記録が弟子の存命中に書かれ、検証された上で残されています。死んだイエスが腐ってゆくを見ながら、イエスの復活を宣教するなどとは考えられないことです。

まさにイエス様は人類の初穂として、事実復活なさったのです。私たちは当然、復活を事実として受け入れます。そうでなければ、神が命を創造することさえ信じられないことになってしまいます。そしてただ受け入れるだけでなく、復活の希望を持ちましょう。

イエス様は単によみがえったというだけではなく、その権威のゆえに、信じる者たちに使命を与えられました。私たちも、この大弟子化命令を受け取って行きましょう。すなわち、自分自身がイエス様の弟子となり、愛と宣教によって弟子を育てて行きましょう。それがクリスチャンの基本姿勢です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

